

早稲田大学の白井と申します。既にヴァラルト学長、コリニョン氏からお話がありましたが早稲田大学と聖アンナ高等学院大学とではこれまで様々な共同研究等々に続けて、新しいプロジェクトをこれから始めたいということで既に今年の6月に訪問したときに合意しております。今回こうやっておいでいただいたので新しい関係がまた発展するのではないかと大変期待しております。とりわけご提案にありましたビジネスマンに向けたビジネスの教育、これはヨーロッパにおける様々な統合で起こっている経験はもちろんのこと、それから逆に日本の方からはアジアにおける様々なマーケット問題、それから日本の状況、政治経済の問題について色々とプログラムを作ることが出来るかと思えます。そういうことを相互で行うことは非常に意義深いことだと思いますし、是非今後そのようなことを両校中心になって進められれば良いなと思っております。また、他にもイタリアの大学とは様々な関係を持たせていただいている学生も色々な大学にお邪魔しております。ヴァッターニさんが引っ張っていただいているヴェニス国際大学は非常に素晴らしいプログラムとして発展を続けておりますが、ここには早稲田大学も一員として協力させていただいておりますが、主に学部学生のトレーニングをやっているのですが、世界中の有名な大学が集まってプログラムを実行されている、これもイタリアで行われている非常に意欲的な教育のプログラムの例として世界に宣伝すべきプログラムであると思っておりますし、これは日本だけではありませんが、世界中の学生たちが集まってそこで色々な交流を行っている、卒業生がこれから色々な立場で世界で活躍していくという時代がもうすぐ来るのだ、という意味でもこのプログラムは非常に敬意を称すべきものだと思っております。

ところで今ヴァラルトさんからも根本さんからもお話がありましたが、今のこのグローバル化、グローバルイゼーションということが叫ばれ現実に進行し、その結果として現在の経済危機という状況に向かえたのですが、ここで分かったことは2つあるような気がします。これは特に大学という立場ですが、一つは大学というのは非常に重要なのだということを改めて私どもはそう感じております。もちろん社会システムに対して我々が金融システムですとかルールですとかに対して、もう少し十分な研究を色々な立場からやるべきだったということもあるでしょう。そういう学問的なこともありますが、もう少し危機とか危険とかに対して多角的に色々な地域の人が意見を交換してやっていくんだということが必要だったのではないかと、みんなこの人も、大学もそうなんです、結局経済を発展させてお金を儲けたいということに夢中になっていて我々の世界に色々な危機があることに深刻に考えていただろうかと、とりわけ自然災害は別ですが、環境問題とかエネルギー問題とかについては非常に大声で叫ばれてはいますが、しかしそういうものについても同じですが、我々やはり大学というところが世界の中の大きな問題あるいは今潜在してまだ見えていない問題について明らかにしていく責任というものがあるということを最近非常に痛感しているところで、そのためには一大学がいくら深い研究をしてみても問題解決にならないし、おそらく本当の問題に実際に役に立つ研究が出来ない、今回はサンタナの大学と協力することが出来ますが、この学生は非常に優秀なんです、そういう方たちとも、もちろん教員も含めて、これからの社会について、ヨーロッパも日本ももちろんアジアの国々もアメリカも含めて、いろいろなところから我々の

知的基盤というものを多角的に伸ばしていかなければいけないんだということが極めて重要だと思っております。そしてその結果として、イタリアとの関係で申し上げれば、日本のマーケットはそこそこに大きいです。イタリアのマーケットは日本に比べれば小さいとは思いますが、両国のマーケットは世界中にこれから生じてくる巨大なマーケットから比べたら小さいものです。要するに発展していく途上国というのはたくさんあるわけであって、そういうところにモノを売りたいという風に我々は考えるわけですが、しかしそういうところにかつてと同じように大量の物資を売っていくということが本当に良いことなのかどうかということについて、これはやはり日本とイタリアのような、まさに文化の高さというものがそこに住む人の生活を創る、ということについてお互い良く知っているわけです。その高さがあるということは先程根本さんをご指摘されたことだと思います。要するに我々は文化の高さというものを持って、自分たちの社会の高さだと思えることを共有していると、これは全くその通りだと思います。必ずしもモノをたくさん消費することを持って良くするという尺度では全くないのです。ですから、GDPが大きくなればそれが満足だということではないということを我々はお互いに共有してそしてそういう考え方、生活の作り方そういうものをこれからの途上国に対しても輸出をして21世紀の地球社会をどういう風にして創っていくかということを協力したいと思っております。要するにこれまでは主に、貿易というモノを共有することによって関係を持ってきましたが、そうではなくて我々は生活を共有する、あるいは文化を共有することによってお互いの国の関係を構築する、そのために大学が基礎になるということはその通りだと思いますので、これから一緒に色々取り組みたいと思います。